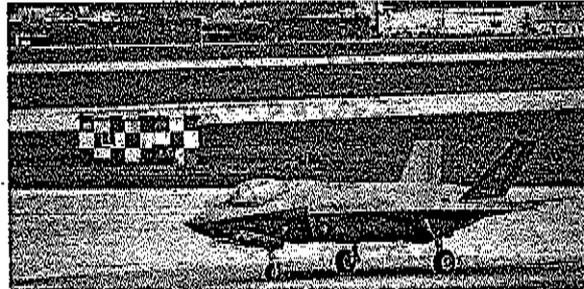


普天間21年米軍機離着陸最多1万8017回

米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）で、2021年の米軍機の離着陸回数が1万8017回と、調査開始以降、年間で最多となったことが防衛省沖縄防衛局の調査で分かりました。

内訳は、常駐機が一方4823回と微減し、外来機（国内外の他の基地に所属する米軍機）が3194回と20年比で544回増加しました。外来機の離着陸回数は調査開始以降で年間として最多を更新しました。



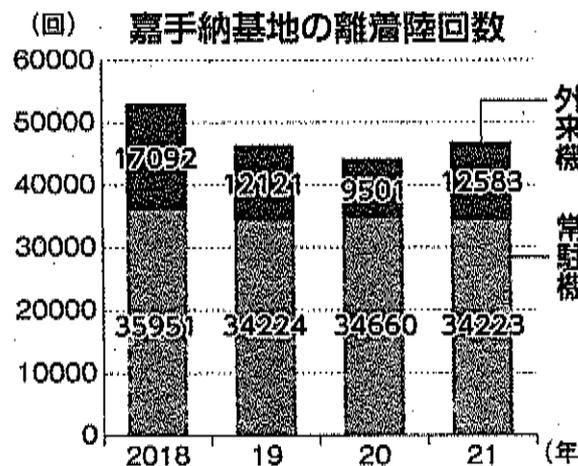
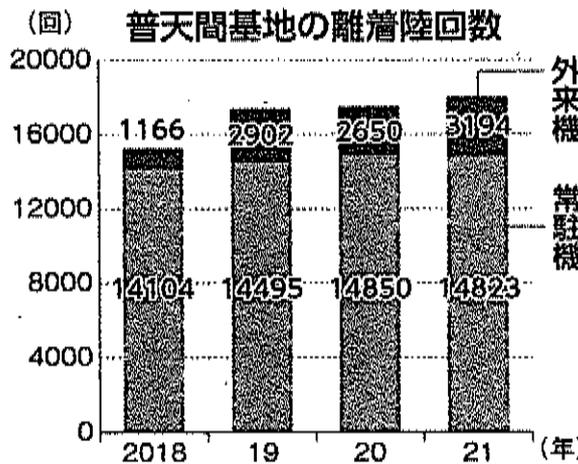
アラスカ・イールソン基地から沖縄・嘉手納基地に飛来したF35Aステルス戦闘機＝2月21日（米国防総省DVIDS）

沖縄防衛局調べ

内外他基地からの飛来増

嘉手納も増

また、米軍嘉手納基地（嘉手納町など）での21年の離着陸回数は4万6806回（20年比2645回増）と調査開始以降、大幅に増加。全体の約26%を占めました。



※沖縄防衛局の資料から作成

F35Bステルス戦闘機による離着陸は553回に上り、最多だった19年（178回）を大幅に上回りました。夜間訓練も顕著に増加しました。21年は1782回と20年比で1.6倍になり、調査開始以降で年間最多を更新。うち外来機による夜間訓練は726回で、全体の約4割を占めました。

以降で年間最多を更新。うち外来機による夜間訓練は726回で、全体の約4割を占めました。

騒音は拡大

日本政府は「沖縄の負担軽減」を名目に、米軍機の訓練移転先に米領グアムなどを追加し、訓練経費を負担してきました。しかし、外来機の飛来が増加することで、むしろ騒音被害が拡大しているのが実態です。

防衛局の調査は17年4月開始。離着陸回数は、タッチアンドゴー、通過、旋回を含みます。